

藤 支 第 762号  
平成 30年 7月 20日

保護者 様

大阪府立藤井寺支援学校  
校 長 藤 井 雅 乗

## 平成 30年度 第 1回学校運営協議会について (報告)

平成 30年 7月 12日 (木) に開催致しました学校運営協議会の要旨を報告致します。

会 長：北川 末幾子 (大阪府立大学 非常勤講師)

副会長：中島 智子 (大阪大谷大学 特任教授)

委 員：北村 敦 (藤井寺市立藤井寺小学校 校長)

竹澤 住江 (卒業生保護者 しゅらの郷福祉会理事 支援センターしゅらの郷管理者)

前田 行雄 (藤井寺市河北地区 副区長)

松木 礼子 (PTA会長)

\*敬称略

### 1 開会

- ・挨拶 校長 藤井 雅乗
- ・配布資料の確認
- ・委員紹介、自己紹介
- ・会長、副会長選出と承認

### 2 報告

#### ① 平成 29年度 進路状況について (進路指導部)

進路未定者はおらず、全ての卒業生の進路が確定した。8割が生活介護となっている。

#### ② 平成 31年度 教科書選定について (教務部)

各学部の教科書担当者に調査の上、使用教科書が重複しないように配慮している。

高等部においては、教科書調査委員会 (教務部、部主事、各教科担当、教頭) で選定する。

#### ③平成 30年度学校経営推進費について (首席)

視線入力装置での研究を 3年間実施予定。「見る力」のアセスメントから認知力の向上、「伝える力」の向上をめざし、最終的に「働く力」(パソコン操作等)へとつながることを期待した取り組みである。今年度中には経過を報告できる。

(委 員) 重度障がいの児童生徒にも活用できるのか？

(事務局) ベッド上でも使用可能。ゲームで遊びながら「見る力」をアセスメントすることから始めることができる。将来は、在宅で就労できることも期待したい。

#### ④「南河内地域の支援教育の更なる充実を共に推進する取り組み」について (首席)

地域の小中学校と本校、さらに専門家を含め、視機能や視知覚の問題を特定し、ビジョントレーニングに取り組むことで地域全体の支援教育の更なる充実をめざす協働の取り組みである。今年はず、羽曳野市の小学校 1校と連携して取り組む予定である。

### 3 協議

#### ① 平成 30 年度「学校経営計画」と「運営方針」について（校長）

（委員）クラブ活動について詳しく説明してほしい。

（事務局）ボッチャクラブとして毎週金曜日の放課後に練習を重ね、ボッチャ競技甲子園への選手選抜を行った。高等部の生徒が中心に 7 名、保護者には迎いの協力を得ながら実施している。

（委員）地域への公開研修会を発信されていることが素晴らしい。その発信力を今後も継続してほしい。

（委員）私の勤務する小学校でも今回の大雨や地震の災害時の行動に、昨年に行った昼休みの避難訓練の経験が生きている。実際に避難行動をしての教訓から、すぐにこれまでの避難行動を見直すことができた。今回、藤井寺支援学校ではどうだったか教えてほしい。

（事務局）藤井寺市担当者は朝一時待機されていたが、地域住民の避難はなかった。本校児童生徒の 1, 2 日分の備蓄品はあるが、地域から実際避難者があつた場合は足りないと予測される。八尾飛行場にある府の備蓄センターが近いので、緊急対応も考えている。今年の避難訓練は、本部設置を運動場、体育館に避難ではなく運動場にテント設営する等実際に想定される方法を設定する予定である。

（委員）様々な取り組みが増えている中、仕事の引き算にについてはどうしていくのか？

（事務局）月 1 回「何もないデー」、毎週金曜日「ノー残業デー」の呼びかけ実施。分掌業務の見直しを進行中。昨年度、分掌業務の「見える化」を行い、データーで表示し検討中である。

（委員）以前の災害時、鼻注用のミルク等が足りない状況があつた。藤井寺支援学校では対策をどのようにされているのか？

（事務局）非常用持ち出し袋で個人が必要なものを入れて預かるという対応をとっている。学校としての備蓄品にはミルクは準備していない。

（委員）校医の勤務する病院から物資を分けてもらうことができないか？等校医との連携（事前に相談しておく）も視野に入れておく必要があるだろう。

### 4 協議のまとめ（会長）

次回連絡

閉会

(以上)